『ナミヤ雑貨店の奇蹟』

東野 圭吾／著
KADOKAWA（角川文庫）

今夏、逝去された著者をしのんで一冊を選びました。廃業した雑貨店に過去から悩み相談の手紙が届くところから物語がはじまります。時代を超えて人の人生がつながっていく物語。「鳥取にナミヤ雑貨店があったら」と想像して読んでみてはいかがでしょうか。

＃ファンタジー ＃ミステリー ＃号泣



『赤パンラプソディ』

桐衣 朝子／著（小学館）

漫画家の娘たち、頑固な夫、愛猫まで、ひとクセもふたクセもある家族が繰り広げる、笑って泣ける家族小説です。著者は46歳で大学に入り、52歳で大学院へ進学。そして61歳で小説家デビューをしました。人生まだまだこれから。著者のインスタグラムも必見です。

＃還暦デビュー ＃笑いあり涙あり

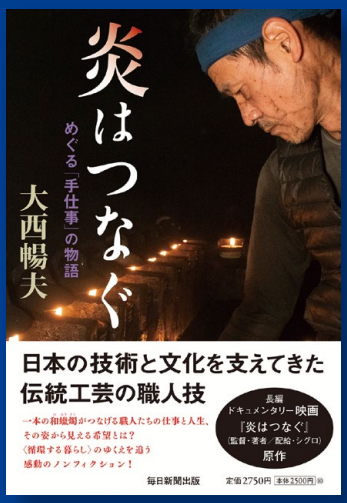


『炎はつなぐ めぐる「手仕事」の物語』

大西 暢夫／著（毎日新聞出版）

写真家・映画監督である著者が、日本各地の職人を訪ね、さまざまな「手仕事」のつながりを追ったノンフィクションです。ひとつの手仕事をたどっていくと、別の職人や素材との思いがけないつながりが見えてきます。そこには、自然の恵みを循環させてきた職人の知恵がありました。

＃手仕事 ＃職人 ＃ノンフィクション



この冬に 読みたい本 特集
ほっこり まったり 読書のススメ







読み聞かせにも オススメ

『吉野葛・盲目物語』

谷崎 潤一郎／著（新潮文庫刊）

『吉野葛・盲目物語』には二編が収められています。「吉野葛」では、奈良県吉野の土地に残る歴史や伝承をたどります。一方、「盲目物語」では盲目の按摩が語り手となり、彼が側近くにつかえたお市の方やその娘たちの物語を独特の語り口で伝えます。今年の大河ドラマの振り返りにもどうぞ。

＃歴史 ＃物語

『おせち』

内田 有美／文・絵　満留 邦子／料理
三浦 康子／監修（福音館書店）

色鮮やかな絵とリズミカルなことばで、おせち料理を一品ずつ紹介する絵本です。それぞれの料理に込められた、健康や幸せへの願いを楽しく知ることができます。新年の準備が楽しくなること間違いなしの一冊。英語版もあり、日本語とはひと味違うことばの響きを楽しめます。親子で読み比べてみるのも楽しそうです。

『OSECHI Food for the New Year』

内田 有美／文・絵
アーサー・ビナード／英語版テキスト
満留 邦子／料理　三浦 康子／監修（福音館書店）

＃年末年始に楽しみたい絵本 ＃食べもの

鳥取の長い冬がはじまります。
コーヒーやお茶を淹れてひと休み。
ほっこりと心をゆるめたら、
新しい本の世界へと旅をしてみませんか？

